

# 農業



風通しの良い軒下につるされた冬瓜（スプイ）

かつては広く稲作が行われていたが戦前はサトウキビを主作とし、加えて季節ごとに冬瓜（山川スプイ）・ヘチマ等も生産しました。1923(大正12)年輕便鉄道が開通すると、連日那覇の農連市場へ野菜の出荷が急増し、市場を賑わせました。1982(昭和57)年から土地改良事業が始まり、露地栽培からハウス栽培へ作物転換が図られ、近代農業が営まれるようになりました。現在では県下で屈指の野菜産地として知られています。近年はヘチマが日本一の生産量を誇り、カボチャの拠点産地認定を受けています。日頃より、ユイマールで土地改良施設の良好な維持管理を行い、農産物の安定生産・供給に寄与しており、毎年行われている農業祭において、各種生産部門の奨励賞や、優秀な成績を修めた子供たちへの表彰などを行っています。集落一体となったふるさとづくりを進めている事が評価され、2010(平成22)年に土地改良区水利組合が「沖縄ふるさと百選」に認定されました。



人口 (男) …496人  
 (女) …529人  
 合計 …1,025人  
 世帯数 ……356世帯  
 面積 ……48.4<sup>㍔</sup><sub>㍔</sub>  
 2011(平成23)年10月末現在

イラスト：嘉数 聡

発行：特定非営利活動法人南風原平和ガイドの会  
 住所：沖縄県島尻郡南風原町字喜屋武257  
 南風原町立南風原文化センター内  
 電話・FAX：098-889-2533

平成23年 沖縄県雇用再生特別事業「シマジマガイド事業」

ハルンチエ  
 農業人魂が  
 築くふるさと

# 山川



特定非営利活動法人 南風原平和ガイドの会

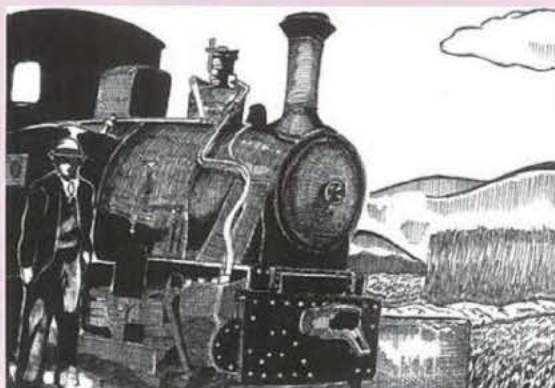
# サターヤー一跡



かつて集落の東の外れにフルサターヤーモエがあり、昭和10年代前半に8号と9号の製糖小屋が建てられました。戦前は1~7号までの製糖小屋は現在の公民館付近に置かれていました。製糖作業は門中とその親戚で刈り出しから炊き上げまでユイマールで行われていました。サター車を廻す馬をムチで叩いて追う子供、車にキビを差し入れる人、火を炊く人、砂糖の炊き具合を調節するシーゾー人（製造人）、搾りかすや薪の運搬作業人達がいきました。

時代の流れとともに1939(昭和14)年には発動機が導入され、現在の公民館の敷地に山川製糖工場が建てられました。機械は台湾製のものでした。製糖工場の操業は1963(昭和38)年まで行われていました。製糖期には30人前後の従業員が働いていました。

# 軽便鉄道



山川集落の南から西にかけて、外周を沿うように走っている路線は1923(大正12)年に開通した軽便鉄道糸満線です。山川駅は当時停留所でしたが、農作物の出荷が急増し貨物の積み込み等に時間がかかったため、停車時間の長い停車場に改めてほしいと地元からの要請があり、1936(昭和11)年に停車場となりました。那覇に近く地の利を生かした野菜生産に拍車がかかった様子うかがえます。

山川駅付近は、琉球王国時代から本島南部と首里を結ぶ交通の要衝であり、現在でもこの付近は南部交通の拠点です。首里王府時代(尚貞王時代)に宇平橋の大工事で、石橋が架けられた経緯があり、現在も石碑が残っています。山川駅は宇平橋近く(50m西)にありました。それ以前の生活物資は馬車運搬でした。

## シマ歩きコース (90分)



## 山川の旧盆

旧暦7月13日~15日は先祖たちがかえってくる日とされていますが、15日のウークイは少し他地域とやり方がちがいます。

家族・親戚が集まり『来年も又いらしてください』と全員で手を合わせ一家の主人が仏壇に供えてあるご馳走等をかたづけます。そしてお茶や線香・お箸などをポールに入れ先程のご馳走と一緒に門の前に置いて手を合わせその後、パイナップルを車(昔はアダンの実を馬車)に見立てて、道でお墓に向かって転がします。先祖は車に見立てたパイナップルに乗ってあの世へ帰っていくといわれています。



## ② 山川体育センター



## ① 山川集落センター



## ⑦ 宇平橋碑



## ③ ナカジン之御殿



## ④ 戦争の爪痕



## ⑥ 古島橋から望む近代農業の風景



## ⑤ アガリガー (ウブガー)



1

瓦屋根の大きな建物の「ムラヤー」が戦時中破壊されたため、戦後同場所に茅葺の公民館が建設されました。その後山川製糖工場の操業停止に伴い工場を公民館として改築。同じ敷地内に1983（昭和58）年現在の公民館「山川集落センター」が建設されました。健康モデル地区として指定された記念の碑が入口にあります。

2

1986(昭和61)年9月に着工されて1987(昭和62)年2月に完成されました。陸上王国と言われる山川の基礎を作ったといっても過言ではありません。かつて山川体育センターの一角には3つの井戸があったと伝えられています。一時はとだえていた御願をお年寄りたちからの復活の要望によりクシヌトウンと呼ばれていた井戸跡に「百度之御嶽」の碑が建立されました。

3

「ナカジン」とは、「村の真ん中」という意味です。1947(昭和22)年に集落中の井戸がナカジン之御殿にまとめられ、現在字では旧6月25日のカシチーのときに拝みを行います。

4

日々の暮らしの中に戦争が持ち込まれた沖縄戦は山川にも深い爪痕を残しています。青年たちの集う水タンクに米軍のロケット砲が命中、2名即死、2名重症の惨事が起きました。

5

かつて7カ所あったムラガー（共同井戸）の中でも、産水や正月の若水を汲むなど、また、ウマチーのときに、他部落に嫁いだ女性たちが拝みに訪れる特別な井戸です。

6

ビニールハウスの近代農業を取り入れたため、台風等、天候に左右されず効率よく野菜の安定的な生産がおこなわれるようになりました。

7

1690(元禄3)年それまで木製だった橋を石橋に架け替えたことを記念して琉球王府が建てた石碑です。山川に立っている碑はレプリカで現在実物（町指定文化財）は南風原文化センターに展示されています。